A large, stylized logo in the background, consisting of a light blue circle with a white and yellow abstract shape inside, resembling a stylized 'S' or a compass needle.

2025年3月期
第2四半期決算説明資料

2024年11月25日
神田通信機株式会社

(証券コード:1992)

目次

1. 2025年3月期 第2四半期決算の概要

2. 2025年3月期 通期連結決算の見通し

3. 企業価値向上に向けた取組み

1. 2025年3月期 第2四半期決算の概要

①連結業績の概要

- 売上は、営業工事が好調だったことにより前年同期比409百万円(14.5%)増となった。
- 利益率は、作番ベースの収益性が向上したことに加え、収益性の高い工事が多かったことにより営業利益ベースで10%台を確保した。

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期		前年同期比増減	
	上半期金額		上半期金額		金額	率
売上高	2,822	3,231	409	14.5%		
売上原価	2,023	2,223	199	9.9%		
売上総利益	798	1,008	209	26.2%		
売上総利益率	28.3%	31.2%	-	-		
販売費及び一般管理費	686	670	△16	△2.4%		
営業利益	112	338	225	200.5%		
営業利益率	4.0%	10.5%	-	-		
経常利益	156	382	226	145.1%		
税金等調整前当期純利益	156	400	244	156.5%		
親会社株主に帰属する当期純利益	96	282	185	191.6%		
当期純利益率	3.4%	8.7%	-	-		

②セグメント別業績の概要

- 情報通信事業・・・社内の組織再編により人件費が減少した為、営業利益が前年同期比190%となった。
- 照明制御事業・・・大型案件の完工を含め、売上好調であったことに加えて、案件のコスト管理が上手く機能したことから、組織再編による人件費増を吸収して収益性が向上した。

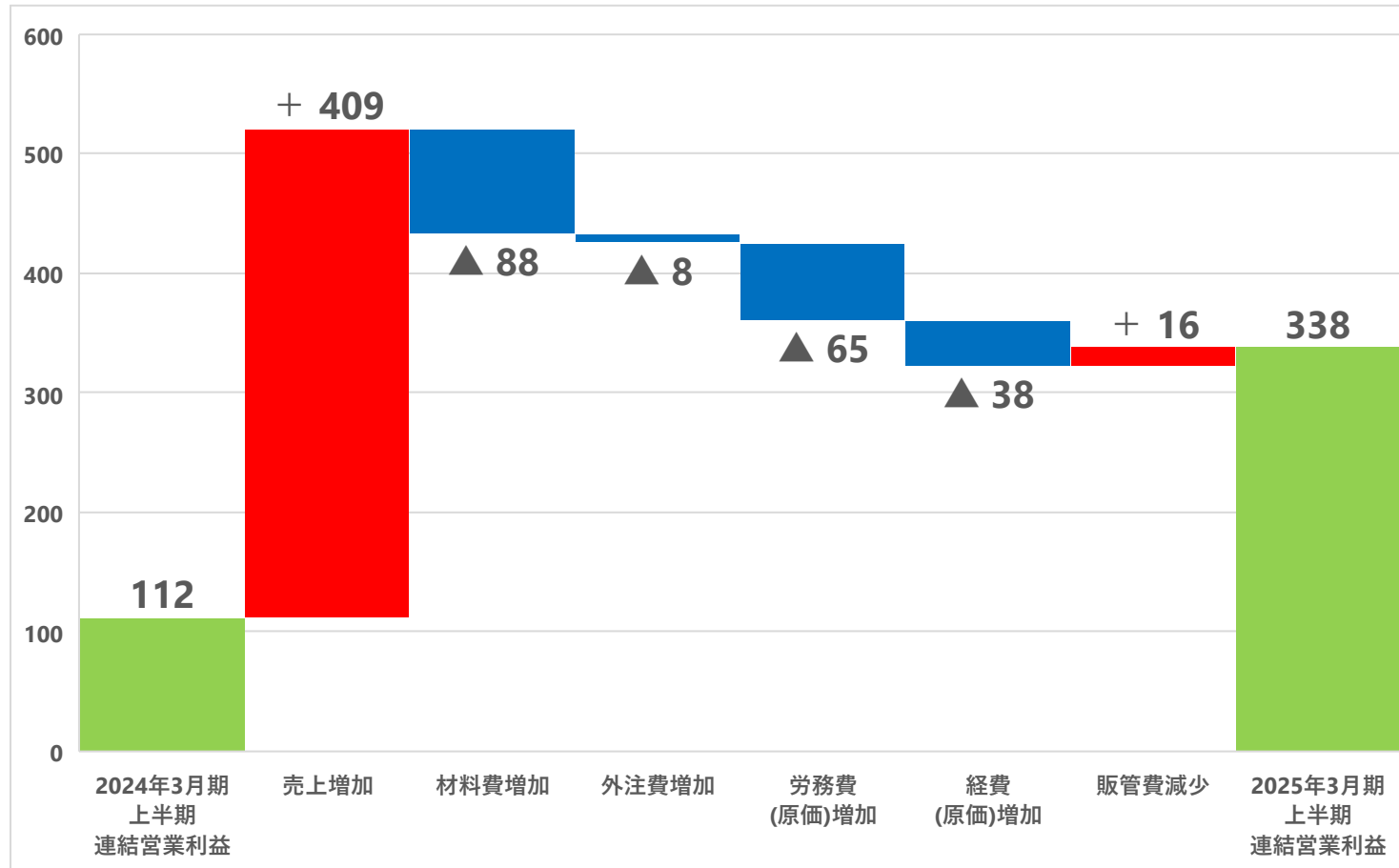
(百万円)		2024年3月期		2025年3月期	
		上半期金額		上半期金額	
情報通信	売上高	2,510	2,719	108.3%	
	売上総利益	725	765	105.4%	
	営業利益	94	179	190.0%	
	営業利益率	3.7%	6.6%	175.4%	
照明制御	売上高	281	479	170.5%	
	売上総利益	54	223	406.1%	
	営業利益	△0	138	-	
	営業利益率	△0.0%	28.8%	-	
不動産賃貸	売上高	30	32	106.6%	
	売上総利益	17	19	110.3%	
	営業利益	17	19	110.3%	
	営業利益率	56.7%	59.4%	103.5%	
合計	売上高	2,822	3,231	114.5%	
	売上総利益	798	1,008	126.2%	
	営業利益	112	338	300.5%	

※記載金額の表示単位未満の端数につきましては、切り捨てて表示しております
 ※売上収益のセグメント間の取引につきましては相殺消去しております

③要因分析

■ 2025年3月期上半期 連結営業利益の変動分析

(単位:百万円)



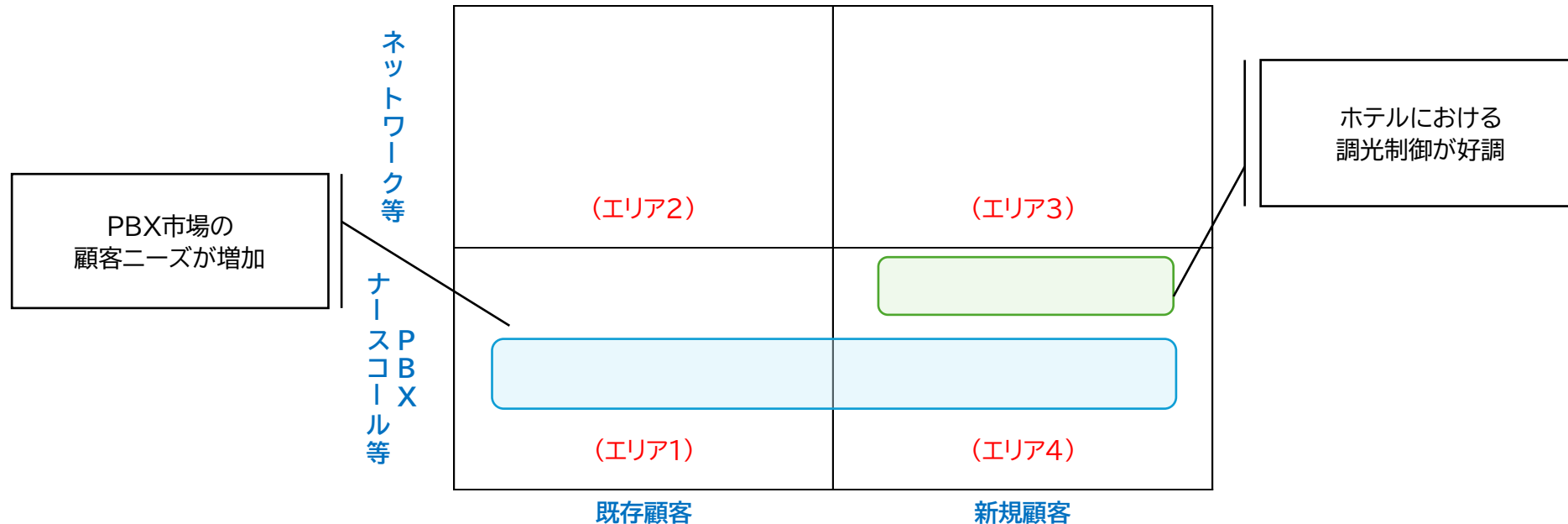
(チャート説明)

1. 情報通信事業、照明制御事業ともに売上が大幅に増加した。
2. 給与水準の引き上げによる労務費の増加や事業転換を見据えた人的投資(教育研修)等を実施したことによる経費の増加があったものの、適正利益を確保する売価設定により収益性(営業利益率)が向上した。

④業績の振り返り(1)

■ 外部要因

- エリア1及びエリア4において、当社の想定を超える顧客需要があった。
- エリア1・4(PBX市場)については、クラウド化・モバイル化から縮小の動きがある一方で、オンプレPBXに対する根強いニーズがあったことから、売上増加につながった。
- エリア4(調光制御)については、首都圏で好評を得たDALI(※)が、外資系のハイグレードホテルで導入され、売上げを伸ばした。



※ DALI(Digital Addressable Lighting Interface の略称)とは、照明の調光制御に特化した制御規格のことです

■ 内部要因

1. 情報通信事業

① 売上増加の要因

a. 旺盛な顧客需要に対して適切な対応をしたこと

② 収益性向上の要因

a. 売上増により固定費を吸収したこと

b. 顧客の希望納期に余裕があったことから、当社都合で施工スケジュールを組むことが可能となり、外注費の抑制に繋がられたこと

③ その他

a. (単発での工事売上でなく)利用料収入を増加させる戦略が徐々に浸透して来たこと

2. 照明制御事業

① 従来下期偏重だったが、取扱い案件数が増えたことで上期の売上額が増えたこと

② 個別案件の採算管理を徹底したことで収益性が改善したこと

⑤連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)

	2024年3月31日現在	2024年9月30日現在	比較増減	
流動資産	5,792	5,027	△ 765	売上債権の減少
固定資産	3,670	3,757	87	投資その他の資産の増加
資産合計	9,463	8,784	△ 679	
負債	3,693	2,958	△ 735	仕入債務の減少 未払法人税等の減少
純資産	5,769	5,825	56	
負債・純資産合計	9,463	8,784	△ 679	

⑥連結キャッシュフロー計算書の概要

(単位:百万円)

	2023年4月1日～ 2023年9月30日	2024年4月1日～ 2024年9月30日	前年同期比	
営業活動によるキャッシュ・フロー	133	480	346	売上債権の減少、仕入債務の減少など
投資活動によるキャッシュ・フロー	15	37	21	前期:有形固定資産の取得による支出など 当期:有形固定資産の売却による収入など
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 258	△ 337	△ 79	自己株式の取得による支出など
現金及び現金同等物の増減額	△ 108	179	288	
現金及び現金同等物の期首残高	2,354	2,533	179	
現金及び現金同等物の期末残高	2,246	2,713	467	

2. 2025年3月期 通期連結決算の見通し

①連結決算の見通し

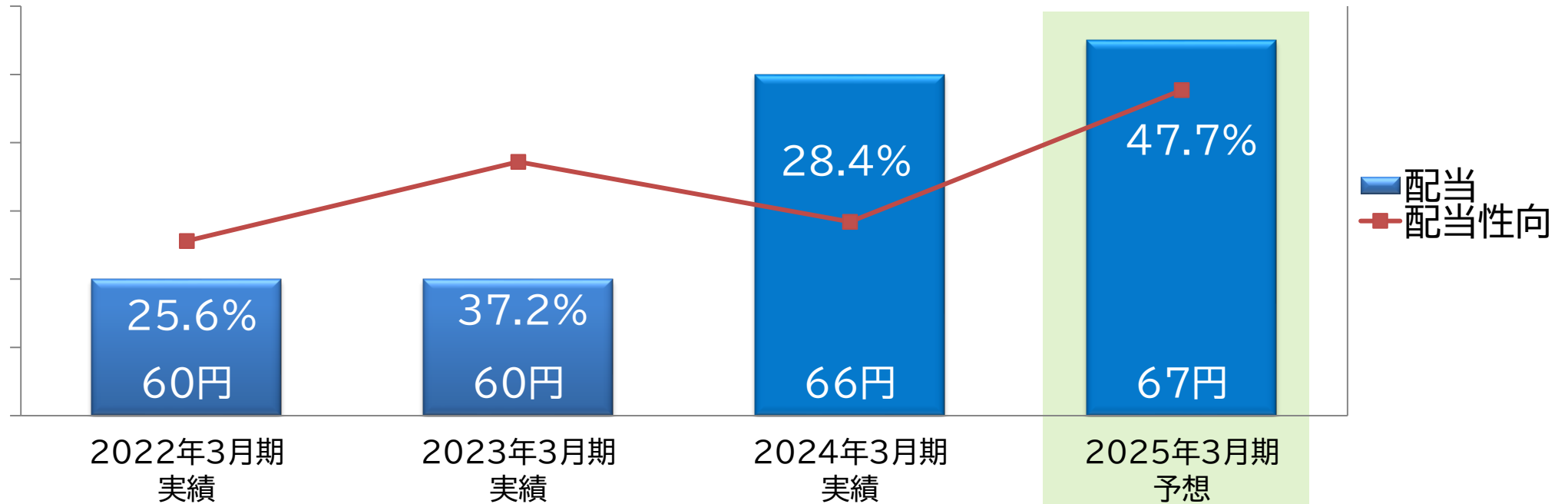
- 業務効率向上のためのシステム投資、提案力強化のための研修などの人材関連投資、日ごろの業務努力に報いる従業員への還元などを予定していることから、下期は投資が増加する予定。

(単位:百万円)	2024年3月期 (87期)	2025年3月期 (88期)第2四半期	2025年3月期 (88期)予想
	実績	実績	2024年11月11日 開示
売上高	7,152	3,231	6,900
売上総利益	2,182	1,008	2,000
営業利益	721	338	410
経常利益	804	382	480
親会社株主に帰属する当期利益	545	282	320
当期利益率	7.6%	8.7%	4.6%
ROE	9.9%	4.9%	5.5%

※記載金額の表示単位未満の端数につきましては、切り捨てて表示しております

②配当予想

- 当社は、株主の皆様への利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、DOE3%を目処として設定し、安定的な配当を継続することを基本方針として参ります。
当事業年度の剰余金の配当については、1株当たり67円を予定しております。



(2024年5月13日開示)

3. 企業価値向上に向けた取組みの進捗状況

①主な取組みに関する振り返り(全体像)

区分	情報通信			照明制御(MGW)	
製品 サービス	PBX		ネットワーク	照明制御	スマートビル(OT)
	オンプレPBX	クラウドPBX			
今期テーマ	新規顧客の開拓 回線利用料の獲得	利用料の増加 顧客との関係性維持 構築・運用コンサル	スペシャリスト化 多能工化 セキュリティノウハウ の蓄積	直販・改修ビジネスへの 営業強化 適正利益の追求	利用料ビジネスモデルの構築 製品強化への積極投資
現在の状況	○	△	△	○	△

②主な取組みに関する振り返り

■ 具体的テーマ

ビジネス関連	人事関連	業務面	投資	財務
<p><事業構造の転換></p> <ul style="list-style-type: none">・エリア2への転換・エリア3の拡大	<ul style="list-style-type: none">・待遇改善・教育の徹底・中核人材の採用強化	<ul style="list-style-type: none">・利用料ビジネスの拡大・1人当り限界利益の向上	<ul style="list-style-type: none">・事業面での開発投資・人材面での投資・利益の20%を投資	<ul style="list-style-type: none">・ROE9%定着を目指す・DOE3.5%以上を目指す・自己株取得2億円(今期)
<ul style="list-style-type: none">・エリア1とエリア4は拡大・事業構造の転換には至っていない	<ul style="list-style-type: none">・待遇改善と教育の徹底は、計画通り進行中・中核人材の採用は進展なし	<ul style="list-style-type: none">・利用料の売上は2.3倍(※)・1人当り限界利益は1.4倍(※) <p>※前年同期比</p>	<ul style="list-style-type: none">・人材投資は進行中だが、事業面での開発投資については未消化・投資については概ね計画通り	<ul style="list-style-type: none">・自己株取得は0.9億円実施済み(2025年度上期ベース)

1. MGWの採用状況

照明制御のための設備連動だけでなく、空調・セキュリティ・人感センサー・位置情報センサー等を統合制御するデバイスとして採用が進んだ。

2. 産学連携

独立行政法人情報処理推進機構のデジタルアーキテクチャ・デザインセンターが立ち上げを計画しているスマートビル・アソシエーション(仮)の設立準備会へ参画。産学官による、スマートシティ・スマートビルディングの普及に取り組み、データ利活用による新たな産業を創出し、人間中心の社会を実現する

【主な参加機関・企業】東京大学、大成建設、竹中工務店、ソフトバンク、日建設計

【参考】<https://www.ipa.go.jp/digital/architecture/conferences/smartbuilding-association/launch.html>

【その他の共同研究先】立命館大学、富山大学

3. 特許取得

MGWの特許を取得(登録日2024年10月31日)。

ご清聴ありがとうございました。

本資料における将来の業績等に関する記載は、現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づき作成しております。

今後の実際の業績は、様々な要因の変化により記載の見通しとは異なる結果となりうる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的に作成したものではありません。投資を行う際は、ご自身のご判断で行って頂きますようお願い申し上げます。

